

手織り・さき織り 糸遊

織物は、いろいろな組織で成り立っています。

3原組織といわれているモノが有ります。

- 1、平織
- 2、綾織
- 3、朱子織

この3原組織を組み合わせ、変化させ作り上げた組織。また、特別組織と言われているものが作り出されています。

また、この組織と色系の組み合わせで、限りなく多くの布が生まれております。

基本になっているのが、ドラフト（完全組織図）と呼ばれているものです。

このドラフトを読むことで、同じ組織を織り出すことができます。書くことで、レシピとして保存することができます。

組織織りは、ドラフト(完全組織図)の読み方を一度覚えたら、後はドラフトを見ただけである程度布の表情が判るようになり、ドラフトだけで織る事が出来るようになります。

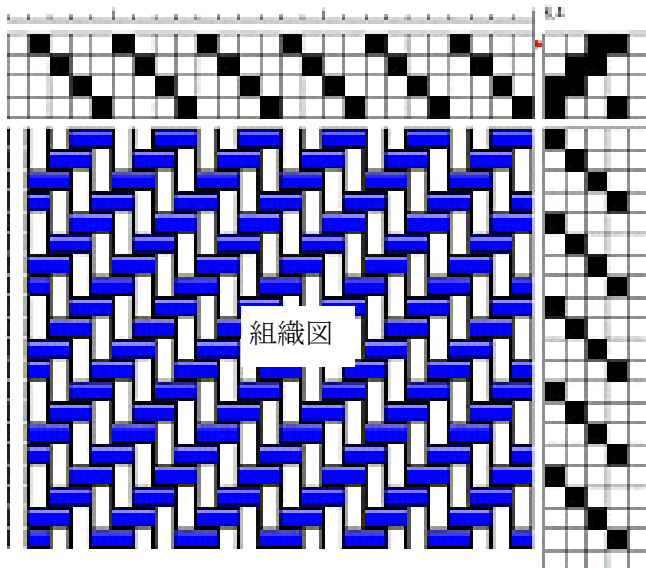
裂き織りの制作に組織織を使うことで、作品の新しい構想への手助けとなり、幅の広がりをもせてくるはずです。

「新・裂き織り通信」
組織図の読み・書き

組織図の読み書き

ドラフト(完全組織図)

綜統通し(右から)



タイアップ
(踏み木と綜統枠を結ぶ)

踏み木
順は上から

組織織り

手織りと組織

三原組織を基本にして、組織織りは無限にあります。実際には手織りの場合、機の綜統枚数、踏み木の本数にも限りがあります。また、手織りとして実用的で効果的なものは、それほど多くはないともいえます。組織とは、経糸と緯糸がどのように組み合って一枚の布を作り上げているかということです。縦糸が緯糸の上を何本おきに浮いているか沈んでいるか(緯糸が経糸の上を何本おきに浮いているか沈んでいるか)と、言うことなのです。組織織りは色と素材との関連で考えるべきでしょう。手織りで良い作品を作るには組織、素材、色彩をいかにバランスよく組み合わせてイメージに合ったものにするかでしょう。組織織りは、素材と色彩を生かす重要な要素です。

三原組織

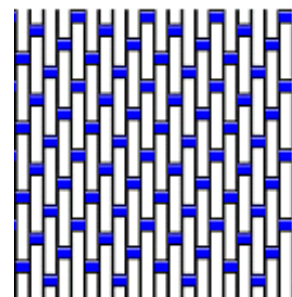
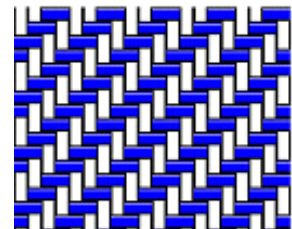
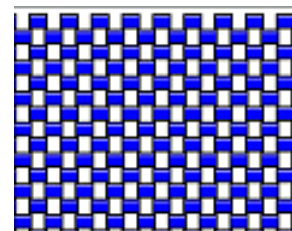
平織り：組織の中で一番多用され、組織的にも一番安定しています。基本的平織りは、経と緯の密度が同じです。糸の種類や太さの異なったものの組み合わせや、密度の変化により平織りでもかなりの変化ができます。

経縞：経糸を細い糸で密度を混ませて、緯糸を太くする。

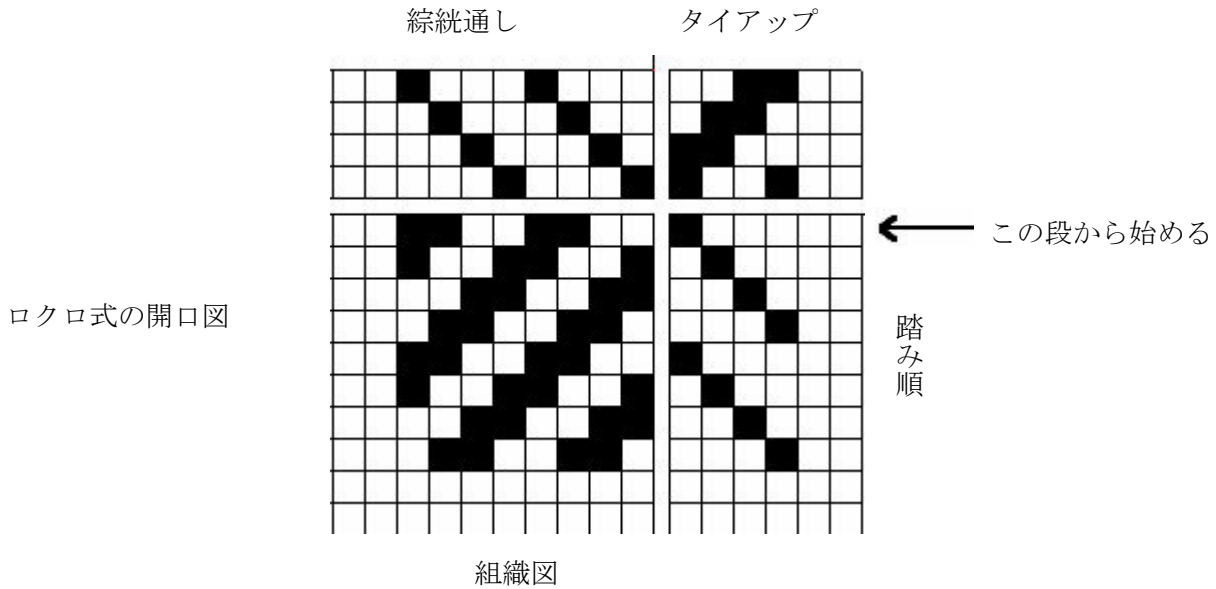
横縞：経糸を太くし、緯糸を細くして緯の密度を混ませる。

綾織：斜文織とも呼ばれ、平織りと同様に多用されている組織です。図の綾織は、緯糸が経糸の上を2本乗っては、2本沈んでいる。これが2/2の綾織です(経糸/緯糸)。他に、2/1,1/2,1/3,3/1等多くの綾織があります。

朱子織：朱子織は、平織り綾織に比べて経糸と緯糸の交点がまばらな組織です。重なりが少ない分だけ組織的に弱いですが、経、緯が長く浮いているために表面に光沢が出る組織です。



完全組織図(ドラフト)の読み方



■は緯糸が経糸の上に乗っている部分です(ジャック式開口は、クロ式の逆にタイアップ)。

図では、綜統は手前から1,2,3,4と順通し、踏み木は左から1,2,3,4と踏んでいくことを示しています。綜統と踏み木の結び方(タイアップ)、■が結びを示す。左から1の踏み木には1,2の綜統枠が、2の踏み木には2,3の綜統枠が3踏み木には3,4の綜統枠、4の踏み木には1,4の綜統枠をそれぞれ結び付けていることを表しています。これらを基にして、組織図を書いていくわけですが、組織図は矢じりの段から書いていく、1段目を例にとると、組織図では黒く塗られている部分は、緯糸が経糸の上に乗っている部分です。経糸が開いた時に、下がっている経糸の上に緯糸が乗るので、下がる綜統に通っている経糸の上に緯糸が乗るとき、組織図の上では黒く塗られるのです(クロ式開口)。

まず1段目で1の踏み木を踏んだ時、1の踏み木にタイアップされている、1,2の綜統枠が下がり、その他の綜統枠は上がっています。その間に緯糸を通していくので、綜統枠1,2の糸の上に緯糸が現れ、これを■で書いて行きます。次に、2の踏み木を踏むと2の踏み木にタイアップされている2,3の綜統枠の経糸の上に、緯糸が乗りますので、これも■で塗ってゆく。この繰り返して、ドラフトが作られて行きます。

上図を見て、綜統通しが順通りで、4枚綜統、4本踏み木、2/2の綾織ということが分かります。後は糸の種類、織り幅、箆目等を決めていくと織りの計画は終わります。

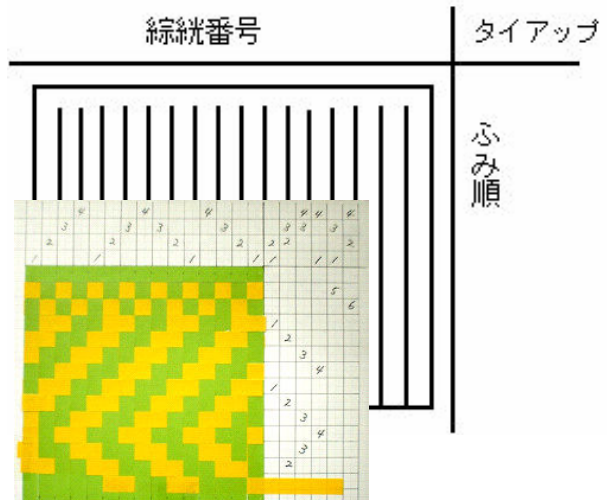
本によってはタイアップの綜統通しが下に書かれているものや、綜統通し、タイアップの書き方で数字を書き入れているもの、■ではなく□で表しているものも有ります。綜統枠の順番を手前からと奥から数えるもの、踏み木も左から数える本と、右から数えるものがあります。基本は同じです。どのやり方でもたどり着くところは同じです。(タイアップ等は、おのこの織機の解説を参照)

組織織りの勉強は折り紙を使うと良く分かります。

折り紙に5ミリ幅に切込みを入れます。これが経糸になります。5ミリ方眼紙に貼り付けます。切込みを入れた色が身の上に綜統枠番号を入れる。経糸の上げ下げで、緯に色の違う色紙を入れます(5ミリ幅の短冊)。これが緯糸になります。短冊の緯へタイアップと踏み順を書き入れておきましょう。組織図に合わせて、緯を入れていきましょう。

基本になる完全組織が作れます。

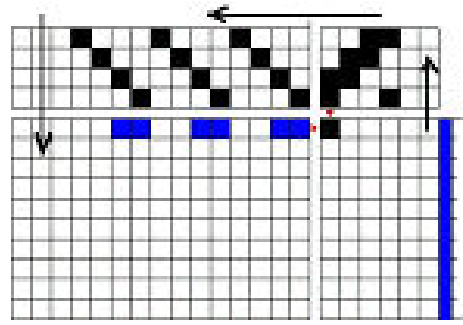
右図は1cm幅で作りました。



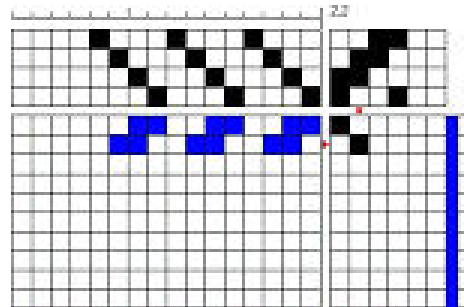
組織図を書き入れましょう。

ロクロ式開口(踏み木を踏むと綜統枠下がります)。綜統通しは、順通しで、タイアップは、2/2の綾です。

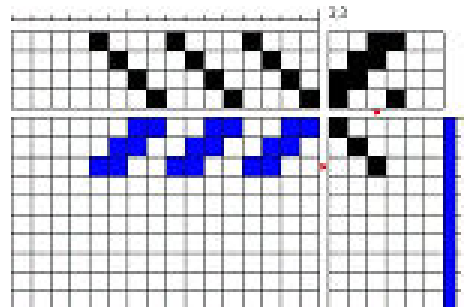
①、左端の1の踏み木を踏むと、タイアップされている1,2の綜統枠が下がり、通されている1,2の経糸が下がり、その上に緯糸が乗ります。綜統枠1,2のところを■で塗りつぶしていきます。



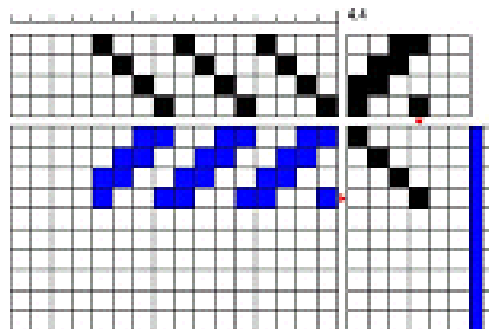
②、踏み木2を踏み、タイアップされている2,3の経糸が下がり、その上に緯糸が乗ります。綜統枠2,3を■で塗りつぶします。



③、踏み木3を踏み、タイアップされている3,4の経糸が下がり、その上に緯糸が乗ります。綜統枠3,4を■で塗りつぶします。

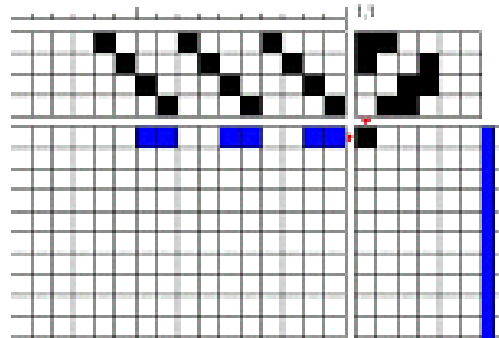


④、踏み木4を踏み、タイアップされている1,4の経糸が下がり、その上に緯糸が乗ります。綜統枠1,4を■で塗りつぶします。

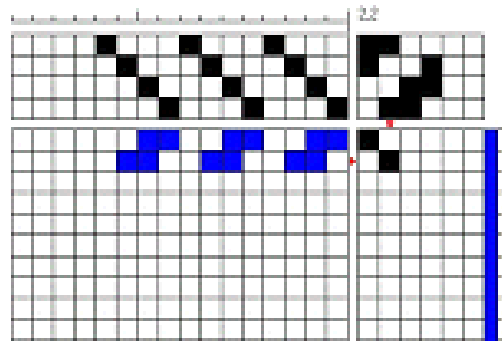


ジャック式開口(踏み木を踏むと綜統枠が上がる)。綜統通しは、順通しで、タイアップは、2/2の綾です。ロクロ式と同じ組織図を作るときは、タイアップはロクロ式と逆になります。

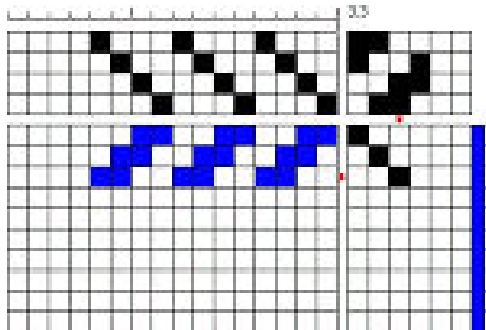
①、左端の1の踏み木を踏むと、タイアップされている3,4の綜統枠が上がり、通されている3,4の経糸が上がり、タイアップされていない綜統枠の上に緯糸が乗ります。綜統枠1,2のところを■で塗りつぶしていきます。



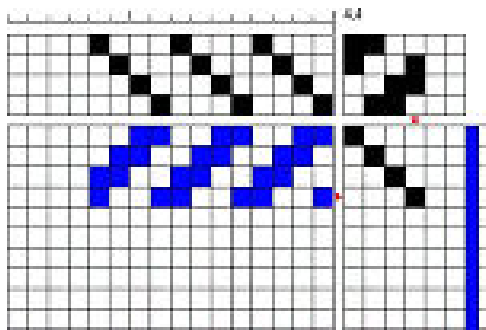
②、左端の2の踏み木を踏むと、タイアップされている1,4の綜統枠が上がり、通されている1,4の経糸が上がり、タイアップされていない綜統枠の上に緯糸が乗ります。綜統枠2,3のところを■で塗りつぶしていきます。



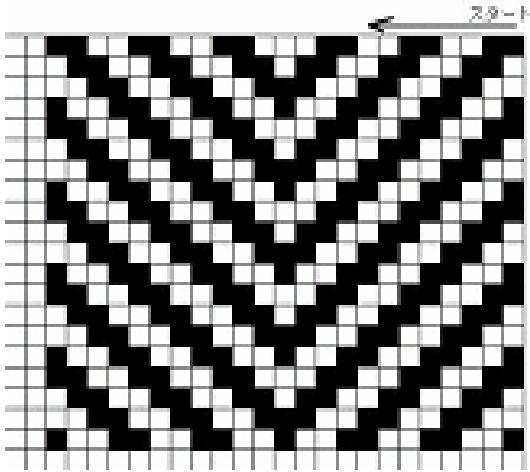
③、左端の3の踏み木を踏むと、タイアップされている1,2の綜統枠が上がり、通されている1,2の経糸が上がり、タイアップされていない綜統枠の上に緯糸が乗ります。綜統枠3,4のところを■で塗りつぶしていきます。



④、左端の4の踏み木を踏むと、タイアップされている2,3の綜統枠が上がり、通されている2,3の経糸が上がり、タイアップされていない綜統枠の上に緯糸が乗ります。綜統枠1,4のところを■で塗りつぶしていきます。

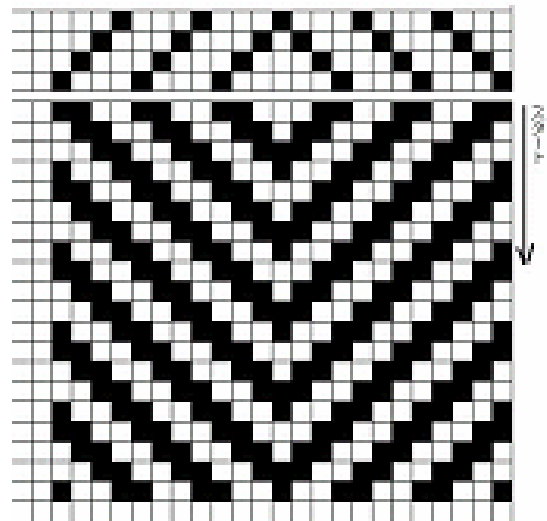


組織図から,綜統通し,タイアップ,踏み順を探します。



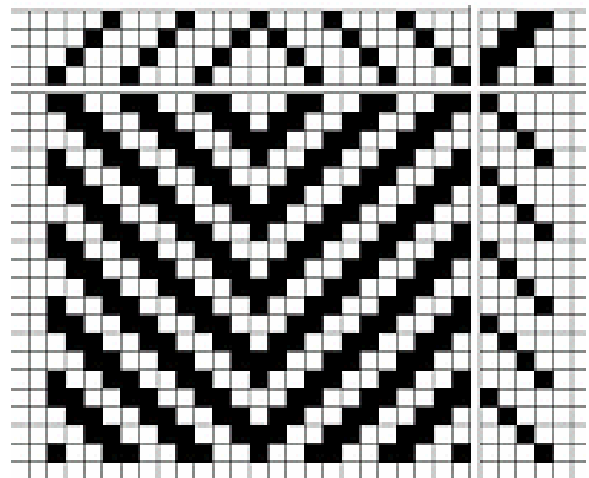
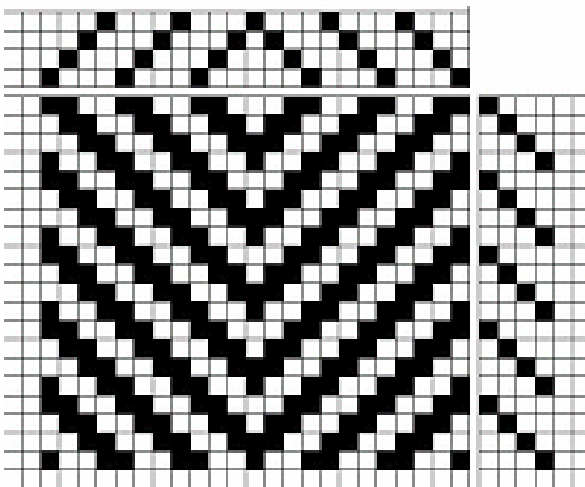
左の組織図を見て,まず綜統通しを探します。経の列を見て,番号を付けていくのですが,経列が同じ模様は同じ数字になります。矢印の方向へ進む。1,2,3,4ここまでは同じ模様はありません。次の経列は,1,と同じ模様の配列になっていますので,この列も1の数字になります。次は,2,3,4,1,2,3,4ここまでは順番に並んでいます。次の経列は3の列と同じ模様になっています。このように経列の模様を見比べながら数字を果てはめて行きます。この書き出された数字が綜統通しの(綜統棒)番号になります。綜統通しのところへ書き入れます。

次は,緯列を見て,上からの緯列の模様を見て数字を付けていきます。矢印のように上から進めます。緯列も,1,2,3,4,1,2,3,4,と順に進んでいます。この数字は踏み順を表しています。この数字を書き入れていきます。



これで,綜統通しと踏み順が分かりました。後はタイアップを調べると,完全組織図(ドラフト)を作ることができます。

タイアップはロクロ式にしています。緯列1の数字を踏み木番号とします。1の踏み木を踏むと綜統番号1,2が■になっています。これはこの1番の踏み木に1,2の綜統棒が結び付けられていることを表しています。2の踏み木は,2,3の綜統棒が結び付けられていることになります。下の図で確かめてください。



3ページに書いた折り紙を使って試みてください。